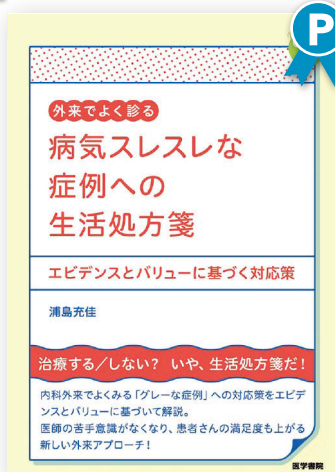




《ジェネラリスト BOOKS》

外来でよく診る

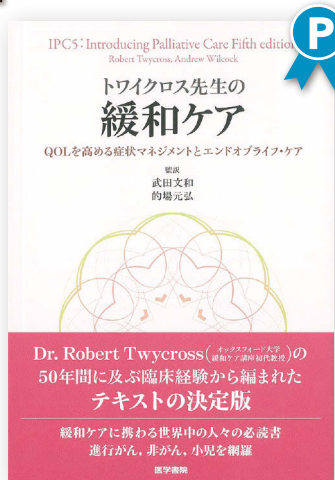
病気ストレスな症例への生活処方箋

エビデンスとバリューに基づく対応策

浦島充佳＝著

本体 3,600 円＋税／A5 判・212 頁／医学書院／2018

一般内科外来には、ガイドラインでグレー（治療適応かどうかギリギリ）な症例も多く来院し、医師にとっては対応が難しいケースとなっている。しかし、そんなグレーな症例も、エビデンスとバリュー（患者の価値観）を基盤としたアプローチにより診療の幅は広がり、患者の満足度は上がる。外来で多く出会う生活習慣病の症例を中心に、「生活処方箋」という新たな武器を示しながら、生活習慣病の新しい診療戦略をわかりやすく示す。



トワイクロス先生の緩和ケア

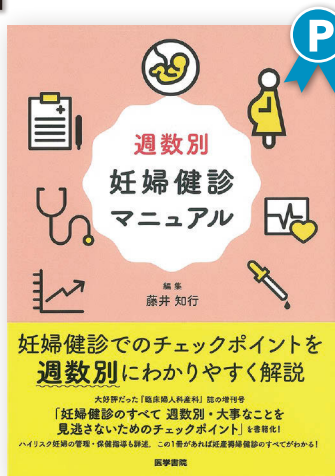
QOL を高める症状マネジメントとエンドオブライフ・ケア

Robert Twycross、Andrew Wilcock＝編

武田文和、的場元弘＝監訳

本体 3,400 円＋税／A5 判・440 頁／医学書院／2018

緩和ケアの標準テキストとして世界中で読み継がれてきた名著『Introducing Palliative Care』の最新第5版の完訳。緩和ケアの泰斗 Dr. Robert Twycross と Dr. Andrew Wilcock 編集。進行がんのみならず、非がん疾患、小児ケアも網羅し、緩和ケアのすべてを見通すことのできる1冊。



週数別 妊婦健診マニュアル

藤井知行＝編

本体 9,000 円＋税／B5 判・412 頁／医学書院／2018

雑誌『臨床婦人科産科』で好評を博した増刊号「妊婦健診のすべて 週数別・大事なことを見逃さないためのチェックポイント」を書籍化。妊婦健診でチェックすべき項目を週数別に解説するとともに、ハイリスク妊婦の管理や保健指導についても詳述。各種ガイドラインの改訂への対応はもちろんのこと、近年その重要性が指摘されている産後健診、特に「産後うつ」に関する記載も充実している。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1119) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



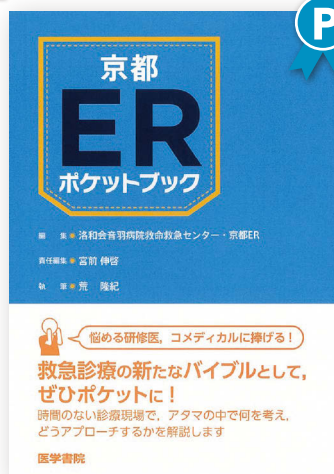
京都 ER ポケットブック

洛和会音羽病院 救命救急センター・京都ER=編

宮前伸啓=責任編集

荒 隆紀=執筆

本体 3,500 円 + 税 / A6 判・416 頁 / 医学書院 / 2018



多くの研修医が ER で経験すること——救急車で搬送された患者の緊急対応についていけず、置いてけぼり。ウォークイン患者の問診に時間がかかり、検査治療計画が立たず、あっという間に 1 時間。イライラする看護師、患者、家族——。ところが上級医はごく短時間でそれらを組み立て解決し、そのうえ系統だったフィードバックまでこなす。本書は、研修医時代の荒隆紀医師の問題意識から生まれた書。上級医は、頭の中でこう考えるアプローチしている！

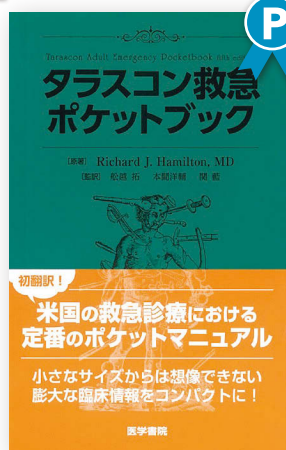


タラスコン救急ポケットブック

Richard J. Hamilton=原著

船越 拓、本間洋輔、関 藍=監訳

本体 2,600 円 + 税 / A6 変判・308 頁 / 医学書院 / 2018 年



「タラスコン」は、小さなサイズからは想像できない膨大な臨床情報をわかりやすく簡潔に記載し、海外で高い人気を誇るポケットマニュアルのシリーズ。本書は救急で遭遇する多くの疾病の臨床的プレディクションルール (CPR) やガイドラインを網羅し、要所にリファレンスを掲載。単なるエキスパートオピニオンではない、エビデンスに基づいた診療方針をコンパクトに提示する。



救急レジデントマニュアル

第6版

監修 堀 進悟
編纂 佐々木 淳一

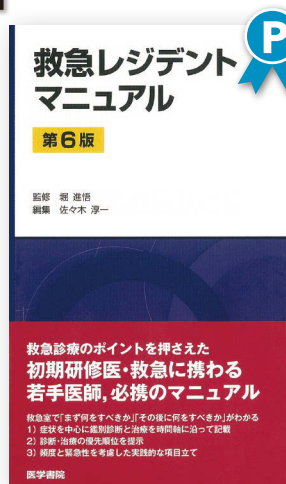
救急レジデントマニュアル

第6版

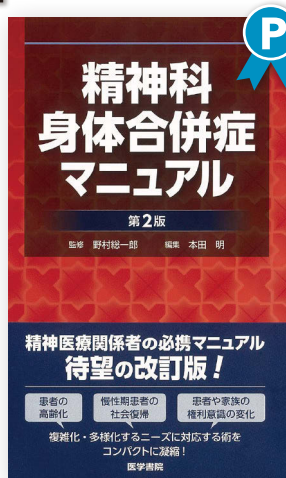
堀 進悟=監修

佐々木淳一=編

本体 4,800 円 + 税 / B6 変判・594 頁 / 医学書院 / 2018



救急・ERの現場で求められる実践的な情報をコンパクトな判型に詰め込んだ定番のマニュアル。①症状から鑑別診断と治療を時間軸に沿って記載、②診断・治療の優先順位を提示、③頻度と緊急性を考慮した項目立て、④教科書的な記述は思い切って省略し救急診療のポイントに絞った内容で、救急室で「まず何をすべきか」「その後何をすべきか」がわかる！ 初期研修医・救急に携わる若手医師、必携のマニュアル、待望の第6版。



精神科身体合併症マニュアル

第2版

野村総一郎＝監修

本田 明＝編

本体 4,500 円＋税／B6 変判・448 頁／医学書院／2018

精神科身体合併症に対応する実践的マニュアル、待望の改訂版！ 総論、各科合併症、精神科と関連が深い身体合併症／身体疾患に起因する精神症状、付録という初版の4部構成は踏襲しつつ、プライマリ・ケアとして頻度の高いものや心身症に関するものなど、新たな要素も豊富に加わりパワーアップ。超高齢化社会で働く精神医療関係者必携の1冊！



精神科医はそのときどう考えるか

ケースからひもとく診療のプロセス

兼本浩祐＝著

本体 3,400 円＋税／A5 判・182 頁／医学書院／2018

豊富な症例提示を通して精神科医が身につけるべき思考プロセスや臨床上の着眼点について解説し、そのなかに精神医療・精神医学に関する著者のフィロソフィーを盛り込んだ1冊。精神科全般に精通する臨床家の手になるライフワーク的な内容は、精神医学の初学者からベテランまで、どのレベルの読者にも得るところがあるはず。他科の医師にとっても、総合病院で働く精神科医を正しく理解し、よい連携の道を開く1冊。